

単元名

欧米の進出と日本の開国

1 単元のねらい

市民革命や産業革命を通して近代化を果たした欧米諸国の脅威によって、日本は開国を余儀なくされ、国内では近代化を求めて薩摩藩と長州藩を中心として倒幕運動が進められ、江戸幕府が滅んだことを理解することができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	・欧米諸国のアジアへの進出を背景に、我が国の開国とその影響について理解し、その知識を身に付けたり、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響について、国内や欧米諸国の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響について、主体的に学習に取り組む態度と、時代背景や事実を関連付けて、多面的・多角的な考察や自ら疑問をもち粘り強く取り組んでいる。

●学習改善につなげる評価

○評定に用いる評価

	1	2	3	4
知識・技能			●○	
思考・判断・表現		●		○
主体的に学習に取り組む態度	●			○

3 単元構造図（全4時間）☆獲得する認識

単元名 欧米の進出と日 本の開国

単元学習前の生徒の認識

市民革命や産業革命などを通して欧米の国力が高まっている。中でもイギリスは、「世界の工場」と呼ばれ急激に成長し、市場を求めて世界の国々と貿易を行っている。ほかの国々もイギリスと同じように世界の国々と貿易を行うのではないか。アジアの国々はどのように関わることになるのだろう。

なぜ、1867年に江戸幕府が滅亡したのか。

第1時 欧米のアジア侵略【●主体的に学習に取り組む態度】

欧米諸国のアジア侵略に対して、中国やインドはどのように対応したのか。

☆アヘン戦争 ☆南京条約 ☆三角貿易

イギリスは清との貿易赤字に苦しみ、大量の工業製品などを中国に売り込むために、貿易を制限している中国をアヘン戦争で勝利して南京条約を結び、力づくで開港させた。インドでは、イギリスに反感を持つ人々が反乱を起こすが鎮められ、植民地支配を受けることになった。他の欧米諸国も同じようにアジアを狙っていた。

第2時 開国と不平等条約【●思考・判断・表現】

不平等な内容なのに、なぜ井伊直弼は日米修好通商条約を結んだのか。

☆日米和親条約 ☆日米修好通商条約
☆関税自主権 ☆領事裁判権

井伊直弼は、朝廷の許可はもらえなかったものの、欧米諸国の脅威から、不平等条約でも結ばざるを得ないと考えた。開国して欧米のような軍事力をつけなければ、欧米諸国の植民地にされてしまう。また、開国により、自由な貿易が行われるようになり、日本の経済は大きな影響を受けた。

第3時 開国後の政治と経済【●○知識・技能】

開国によって、日本はどうなったか。

☆尊王攘夷運動 ☆井伊直弼 ☆桜田門外の変 ☆公武合体策

幕府が朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を結んだことから、天皇を尊ぶ尊王論と、外国の勢力を排除して鎖国体制を守ろうとする攘夷論とが結び付き、幕府の政策に反対する尊王攘夷運動が盛んになった。大老の井伊直弼は、幕府の権威を立て直そうと反対する者を厳しく処罰していくが、元水戸藩士によって暗殺された。幕府は権威を取り戻すために、朝廷との結び付きを強め政治改革を行った。開港の経済的影響として、金の流出や物価の上昇などの問題が起こったが、生糸の生産が盛んになった。

第4時 江戸幕府の滅亡【○思考・判断・表現、○主体的に学習に取り組む態度】

対立していた薩摩藩と長州藩が、なぜ手を組んで倒幕に動いたのか。

☆西郷隆盛 ☆木戸孝允 ☆薩長同盟 ☆大政奉還 ☆王政復古の号令 ☆戊辰戦争

薩摩や長州では、外国の戦力を目の当たりにし、攘夷論で日本を守り体制を維持する考え方よりも、新しい仕組みのもとで、外国のように近代化することが必要だと考え、倒幕運動が広がった。そうした中で、徳川慶喜は、武力倒幕をさけ新政権で主導権を握ることを考え、大政奉還をして政権を朝廷に返すことになった。しかし、王政復古の号令や戊辰戦争により新政府軍が実権を握っていく。

単元学習後の生徒の認識

市民革命や産業革命によって近代化を果たし、大きな国力をもつようになっていった欧米諸国は、鎖国の眠りから日本を目覚めさせた。そして、欧米諸国と実際に戦い強さを実感した、薩摩藩や長州藩などが中心となり日本の近代化をはかっていこうという動きが、倒幕運動につながっていった。

4 単元指導計画

<p>1 欧米のアジア侵略</p>	<p>アヘン戦争が起きた理由を調べることを通して、イギリスが清との赤字貿易を解消し、貿易を優位に進め、自国の産業を発展させようとしたことに気づき、産業革命を果たしたヨーロッパの各国が市場拡大のためにアジアに進出してきたと考え、表現することができる。</p> <p>☆アヘン戦争 ☆南京条約 ☆三角貿易</p>	<p>1 イギリスの三角貿易から、本時の課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜアヘン戦争が起こったのか。</p> <p>2 資料から追究し、全体で交流する。 ・イギリスは貿易赤字解消のため、銀の流出を食い止め工業製品をたくさん売った。 ・清はアヘンの密輸により、銀が流出して財政難になっている。イギリスに対し、アヘンを取り締まったため、戦争が起きた。 ・清が負け、不平等な条約を結ばされた。</p> <p>3 アヘン戦争後の清の様子や、イギリスのインド支配について知る。 ・清では太平天国の乱が起こり、これをイギリスやフランスが平定し、清への影響力を強めた。 ・イギリスの支配に抵抗したインドでは反乱が起きたが、イギリスが鎮圧し、植民地化した。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>アヘン戦争が起きた理由を、欧米諸国が、市場拡大のため、アジアに進出したことと関わらせて考察し、記述している。</p> <p>【主体的に取り組む態度】</p>	<p>◇イギリス・インド・清の貿易の変化 ◇19世紀中頃のユーラシア ◇アジアとイギリスの綿織物の輸出額の変化</p> <p>・アヘン戦争が起きた原因・結果・その後の様子の視点を与えることで、イギリスのねらいに気付くことができるようにする。</p>
<p>イギリスは清との貿易赤字に苦しみ、大量の工業製品などを中国に売り込むために、貿易を制限している中国をアヘン戦争で勝利して南京条約を結び、力づくで開港させた。インドでは、イギリスに反感を持つ人々が反乱を起こすが鎮められ、植民地支配を受けることになった。他の欧米諸国も同じようにアジアを狙っていた。</p>				
<p>2 開国と不平等条約</p>	<p>井伊直弼が不平等な条約を締結した理由と開国後の社会の変化を調べることを通して、欧米諸国の脅威から日本の独立を保つために条約を締結したと考え、表現することができる。</p> <p>☆日米和親条約 ☆日米修好通商条約 ☆関税自主権 ☆領事裁判権</p>	<p>1 日米修好通商条約の内容から、本時の課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">不平等な内容なのに、なぜ井伊直弼は日米修好条約を結んだのか。</p> <p>2 資料から追究し、全体で交流する。</p> <p>【視点1 外国の脅威】 ・欧米諸国の軍事力に、日本は対抗できない。 ・アヘン戦争の結果を知り、日本も清のように植民地にされてしまうかもしれない。</p> <p>【視点2 開国の利点】 ・開国することで、欧米のような近代的な軍事力をつけることができる。</p> <p>3 開国の影響について知る。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>井伊直弼が、不平等な条約を締結した理由について、国際情勢における日本の立場や実態をもとに考察し、記述している。</p> <p>【思・判・表】</p>	<p>◇日米和親条約 ◇日米修好通商条約 ◇井伊直弼とハリス ◇幕末の貿易 ◇貿易の相手国 ◇物価の上昇 ◇開国・通商をめぐる大名の意見</p> <p>・条約締結による利点を考えるようにすることで、締結の意味を考えられるようにする。</p>
<p>幕府が朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を結んだことから、天皇を尊ぶ尊王論と、外国の勢力を排除して鎖国体制を守ろうとする攘夷論とが結び付き、幕府の政策に反対する尊王攘夷運動が盛んになった。大老の井伊直弼は、幕府の権威を立て直そうと反対する者を厳しく処罰していくが、元水戸藩士によって暗殺された。幕府は権威を取り戻すために、朝廷との結び付きを強め政治改革を行った。開港の経済的影響として、金の流出や物価の上昇などの問題が起こったが、生糸の生産が盛んになった。</p>				
<p>3 開国後の政治と経済</p>	<p>開国後の日本の変化を読み取ることを通して、尊王攘夷運動の高まりが倒幕運動につながっていったことや、資本主義経済に組み込まれて金が流出したことなどが理解できる。</p> <p>☆尊王攘夷 ☆井伊直弼</p>	<p>1 前時の復習から、本時の課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">開国によって、日本はどうなったか。</p> <p>2 資料から追究し、全体で交流する。 ・朝廷の許可を得ずに条約を結んだことから、尊王論や攘夷論が高まった。 ・やがて、二つを結び付けた尊王攘夷論が登場した。 ・外国との金銀交換比率の違いから、大量の金が海外へ持ち出されてしまった。 ・質の悪い小判がでまわったことで、物価が急速に上昇した。</p>	<p>開国の思想的・経済的影響を、人々の生活とのかかわりから理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【知・技】</p>	<p>◇幕末の貿易 ◇貿易の相手国 ◇物価の上昇 ◇金の流出</p>

		<p>幕府が朝廷の許可を得ずに日米修好通商条約を結んだことから、天皇を尊ぶ尊王論と、外国の勢力を排除して鎖国体制を守ろうとする攘夷論とが結び付き、幕府の政策に反対する尊王攘夷運動が盛んになった。大老の井伊直弼は、幕府の權威を立て直そうと反対する者を厳しく処罰していくが、元水戸藩士によって暗殺された。幕府は權威を取り戻すために、朝廷との結び付きを強め政治改革を行った。開港の経済的影響として、金の流出や物価の上昇などの問題が起こったが、生糸の生産が盛んになった。</p>	
<p>4 江戸幕府の滅亡</p>	<p>江戸幕府の滅亡の経緯を調べ、薩摩藩と長州藩が外国との国力の差や近代化による世直しの必要性を感じ始めたことに気が付き、近代化を目指して倒幕運動へ向かったことが理解できる。</p> <p>☆西郷隆盛 ☆木戸孝允 ☆薩長同盟 ☆大政奉還 ☆王政復古の号令 ☆戊辰戦争</p>	<p>1 日米修好通商条約後の日本の動きから本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>対立していた薩摩藩と長州藩が、なぜ手を組んで倒幕に動いたのか。</p> </div> <p>2 資料から追究し、全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長州藩と薩摩藩がそれぞれ欧米と戦ったが大きく負けた。 ・欧米の強さを知った両藩は、日本のしくみを変える方へと動いた。 <p>3 薩長同盟後の日本の動きを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新政権に影響力を残せるように、徳川慶喜は政権を朝廷に返した。 ・王政復古の号令で、徳川の官職や領地を返上させられたのが、新政府軍と旧幕府軍で争いが起き、旧幕府軍が降伏した。 <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>江戸幕府が滅亡していった理由について、欧米との関係に着目しながら考察している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇尊王攘夷運動 ◇桜田門外の変 ◇下関砲台の占領 ◇薩英戦争 ◇船中八策 ◇大政奉還と王政復古の号令 ◇戊辰戦争 <p>・両藩が倒幕した理由を、「欧米」の語句を使ってまとめることができるようにする。</p> <p>薩摩や長州では、外国の戦力を目の当たりにし、攘夷論で日本を守り体制を維持する考え方よりも、新しい仕組みのもとで、外国のように近代化することが必要だと考え、倒幕運動が広がった。そうした中で、徳川慶喜は、武力倒幕をさげ新政権で主導権を握ることを考え、大政奉還をして政権を朝廷に返すことになった。しかし、王政復古の号令や戊辰戦争により新政府軍が実権を握っていく。</p>